〔研究ノート〕

「顔」への心理学的アプローチ

吉　川　　茂

Ⅰ　ヒトと顔

ヒトにとっての顔は他の身体各部と比較して生理的にも心理的にも最も重要な部位の一つである。呼吸や摂食のため，周辺環境の情報収集のため，社会的に個人を代表するため，他者とのコミュニケーションを図るためなど他にはない機能を担っている。こうした顔のさまざまな側面を動物レベルからざっと概観し，現代社会における顔の意味を考えるとともに，今後のより有効な研究の方向性を探ることが本稿の目的である。続けて大学生を対象とした関連項目の質問結果も示しながら顔に対して大学生がもっている意識も含めて概観したい。

1．ヒトの顔の特徴

すべての生物に顔があるわけではない。貝類やイソギンチャク，ヒトデ，クラゲなどには顔らしきものは見当たらない。身体が左右対称で偏向せず一定方向（前になる）に比較的早く移動する生物に顔ができた。移動する先端には外界やエサの情報を得るための器官，栄養物を取り込む器官が集中して顔となったのである。ミミズを見ればわかるが生命維持のための口が基本であり，食物や捕食者を察知し弁別するために目，鼻，耳も出来てきたと考えられている。身体の大きさに比例して強度や運動能力を保つためには脚部や体幹部も大きくなければならないが，情報を扱う感覚器官（中枢神経系）は大きくなる必要はない。ゾウやクジラの目は巨大な身体に比して小さく，トラの耳も小さいのはその一例である。（ゾウの耳介が大きいのは集音のためではなく放熱のためであるといわれる）

それではヒトの顔と動物の顔にはどのような差異があるのか。以下のような違いが認められる。

①皮膚が露出している

ヒトの顔には毛がないので顔面の筋肉の動きや血流（皮膚の色）が観察可能である。

②白眼部分がある

いわゆる黒目の両側に強膜の白眼部分がある。動物にはほとんどなかったり着色されていて目立たなかったりする。敵や獲物から自らがどこを注視しているかという視線の方向を読み取られにくいようにしている。

③鼻が高い

ヒトの鼻は平面的な顔面から鼻だけが突出しているが，動物は口部分全体が突出してその先端に鼻は位置している。見方を変えれば，食物を柔らかくして食べられるようになり口（顎）が後退して鼻だけが残ったともいえる。

④顔（頭）が動く

ヒトの顔は首があって胴体部分とつながっているので顔のみの可動ができる。魚類や両生類には首がなく身体を動かさなければ顔の向きを変えることができない。

⑤眉がある

動物の目の少し上部に長い毛が生えているがヒトの眉のような生え方とはまったく異なっている。

毛のない顔面にあるヒトの眉の動きは目立つのでコミュニケーションに役立つ。

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 54 No. 2

⑥唇がある

口腔粘膜が外側に出て唇となっているが，コミュニケーションに必要な微妙な発声のためやセックス・アピールのためと考えられている。

⑦顎がある

動物では口の下部と喉とはなめらかにつながり，横から見てヒトのように明確に突き出た顎はない。

チンパンジーの横顔を見れば容易に理解できる。

2．ヒトの顔を見てわかること

顔にはそのヒトに関する多くの情報が見え隠れしている。見る側の関心度や知識・経験度による影響も少なくはないが，2つに分けて考えることができる。一つは顔の静的・固定的な情報であり，もう一つは動的・流動的な情報である。

まずは，静的・固定的な情報であるが，顔の大きさや輪郭，目・鼻・口などの配置，肌の色などはほぼ一定しており，一般にはつぎのような情報が含まれる。もちろんさらに動きや時間の経過による変化情報が加われば，より広範かつ正確な判断材料になる。

①頭部の骨格，脂肪のつき方，筋肉，血管など顔の内部構造に関する情報

②皮膚の状態（肌色，はり，透明感，日焼けの影響，肌理，しわ，たるみ，くすみ，しみ，あざ，ほくろ，いぼ，傷跡），目，鼻，口（唇），耳，眉，頬，顎，額，毛（まつ毛，髭）など顔の外部構造に関する情報

③年齢，性別，人種，ときには職業など属性に関する情報（推測を含む）

④その人が誰であるかという個人を同定する情報

⑤髭剃りやメイクなど顔の手入れや化粧，装飾の仕方に関する情報

⑥一般的な美醜や個人的に好みの顔かどうかに関する情報

⑦顔色や肌の状態から健康に関する情報

つぎに動的・流動的な情報であるが，このほとんどは感情表出としての表情が中心となる。生理的表出としての瞬きやしゃっくり，咳・くしゃみ，発汗，チック症状などを含めることもある。顔の皮膚を動かす筋肉を表情筋（英語では顔面筋：facial muscle）という。しかしながら表情筋の本来の機能は表情をつくることではなく，生物としての生存に関わっていたものである。

①目の周囲の表情筋は，目を閉じたり細めたりして異物や強烈な光線の侵入を防ぎ，重要な感覚器官を防護するために発達したものである。

②口の周囲の表情筋は，唇や頬の動きをコントロールして，食物の咀嚼と吸引をつかさどるものである。これらがなければただ飲み込んだり舐めたりすることしかできない。また発声にも深く関わっていて唇や口腔を調節して多様な音声を発することができる。

③ヒトでは口と目の周りの筋肉はよく発達しているが，耳や鼻周辺の表情筋は他の哺乳類と比べるとかなり劣っている。音や匂いによって食物（エサ）や外敵を感知する必要度が低下していったせいであると考えられる。ヒトは耳介を立てたり動かしたりできないが，その耳介もかつてはより頭頂部付近にあったものが脳（頭蓋骨）の発達により顔の側面に押しやられたとの説がある。

3．表情

顔，とりわけ表情は心の掲示板，モニター画面と評されるほど内面の心理状態を反映するものとして経験的に捉えられている。ヒトに共通して備わった，すなわち文化や民族の違いを超えたものとして6種類の基本表情が示されている。喜び，驚き，恐れ，悲しみ，嫌悪，怒りであるが，写真の使用や表情選択肢の制約といった研究手続き上の不備を指摘する声もある。しかしその後の研究によって，軽蔑，困惑，恥，愛，

無断転載禁止

欲望，同情といった感情とそれに対応する固有の表情も報告されている。

また，表情は必ずしも自然な感情と直結するだけのものではなく，場面に応じた適切な感情表出として文化的に学習されたルールの影響をも受けているとする表情の神経文化説（neuro-cultural theory）も提唱されている。つまり表情は生理的自動的に生まれるのではなく文化的なコントロールを受けているというのである。実際の感情体験よりも大げさに誇張して見せる「最大化」，実際よりも弱く控えめに見せる「最小化」，感情的にニュートラルなふりをして平然として見せる「中立化」，実際の感情体験とは異なる別の感情を体験しているかのように欺いて見せる「仮面化」などがある。根本的な感情体験が同じであったとしても，文化の中で習慣化した，あるいはそれぞれの場面に適した程度，様式で表情は調整されるのである。

表情が精神内界と密接な関連があるとすれば，異常な精神は顔，表情に認められるはずである。両極性障害の患者の表情などは写真を見るだけでも比較的容易に理解できるが，統合失調症の患者の表情は写真からは弁別するのが難しいとされる。不可解さ，不気味さ，気味悪さ，冷たさ，空虚さなど実際に対面すると感じ取られるのだが，写真からは伝わってきにくい。それは表情そのものが異様なのではなく，その場，その相手に相応しくないという違和感として伝わってくるからである。人間どうしがその社会的な状況下では示さない表情なのである。写真は一瞬の表情しかとらえることができないので，時間的経過のなかで変化する表情の違和感を表現できないためである。

4．顔と魅力

顔の魅力については自らの顔であっても他者（特に異性）の顔であってもヒトは強い関心を抱きがちである。魅力的な顔であるほど善良で社会性の高い人であると見られやすい。大学生に男女の写真を見せ人柄や将来を推測させると，魅力的な男女は，好ましい性格を持つ，社会的に高い地位につく，結婚相手に恵まれる，幸福な生活を送るであろうなどと予想された。ただし結婚後よい親になりそうかどうかは魅力の程度と関連なかった。架空の模擬裁判の判決では美人であれば同じ犯罪であっても刑罰が軽くなりやすい。ただし結婚詐欺など美貌を犯罪に利用した場合は別である。外見的魅力が高い女性は男性から親切にされやすい，魅力的女性と交際している男性は高い評価を受けやすい。子どもの魅力に関しても，かわいい子はかわいくない子と同じいたずらをしても悪く評価されないことが大学生を対象とした研究で報告されている。3 歳から 6 歳の子どもに他の子どもの写真を見せてふだんの行動を想像させると，外見がよい子は親切で暴力を振るわないと思われている。現役の小学校教師に子どもの評価を求めると，外見がよい子は道徳的でよい振る舞いをすると評価されたが，教師経験年数による違いはなかった。男子大学生に美人の写真を見せて性格に関する印象を尋ねると，より美人度の高い女性はまじめ，誠実，親切，協調性，温かい，明るい，やさしい，おとなしいという印象を答えた。魅力的な男女ほどデート相手として選ばれやすいこともコンピュータ・デートの実験で示されている。魅力的な顔が対人関係において良好な評価を受け有利に働くことは多くの実験結果により証明されている。

それでは魅力的な顔にはどのような特徴があるのか。年齢軸に関しては成熟した特徴の顔と乳児的な顔の特徴の 2 つがあげられている。コンピュータ合成によってつくられた平均顔と左右対称性の高い顔が魅力的だとする研究もある。平均性と対称性は生理的頑強さや環境適応度，また知覚的情報処理の負荷が少なくて済む知覚的流暢性の観点からの説明がなされている。顔の男性度―女性度の程度に関しては男性，女性ともにすこし女性化した顔のほうが好まれるが，これは顔を女性化するほうがより若く見えるためだと考えられている。女性の立場から配偶者選択を考えた場合には女性らしさの見られる男性顔の方が結婚生活や子育てに協力

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 54 No. 2

的なパートナーになりそうであると受け取られることも理由としてあげられる。

顔の魅力判断の測定については，知能検査において３歳児程度の問題として一対の女性の顔の美醜弁別問題が用意されている。さらに早期の新生児であっても大人が魅力的とする顔のほうを長く見つめることが報告されており顔の美醜判断には学習経験によらないところが大きいのではないかと考えられている。

５．顔とヒトのこころ

自分の顔であっても自分で直視することはできず，鏡や写真などにうつった像を見るのみである。顔に食べかすがついていたり化粧くずれがあったりしても気づかない。相手から見られる対象となることのほうが圧倒的に多いわけで，この意味ではジョハリの窓における盲点領域（blind area）に類似している。自分が相手の顔を見てあれこれと思い評価を下しているように相手も自分の顔を見ているはずだと想像あるいは確信する。顔を見られることによる物理的，直接的な影響はほとんどないが，見られているという意識が自分自身の中にさまざまな心理的影響を及ぼす。性別，年齢から肌の状態，現在の感情，気分，道徳性から性格傾向までそのヒトの人間としての大部分を認知，推測され評価されてしまっているだろう。自分を相手の視点から眺めることで，どのような見方をされているかという公的自己意識が強く喚起され，自己に対する評価懸念や賞賛獲得欲求・拒否回避欲求も強まるであろう。相手が幼児や動物なら平気でいられるが，自分との社会的，情緒的，利害的関係がなんらかの形で密接であればあるほど自己呈示の動機づけはより強まるはずである。顔の美醜判断，好悪感情，性的欲求，親和欲求あるいは敵意が相手には生じているかもしれない。自分が相手に抱いている内面的な評価や感情を読み取られその結果が自分にフィードバックされるのではないか。相手と顔を合わす，向かい合う状況においては程度の差こそあれこうした複雑な心理が内包されていると考えてよいであろう。

これほど対人関係の接点・窓口ともいうべき顔あるいは表情を自分で確認して統制することが困難であるため，そのことに関心が集中すれば不安が生じて回避したいという消極逃避的な態度につながりやすい。この不安を軽減するには，どのように見られ思われ評価されようが構わないと割り切れるかどうか，あるいは見られたい思われたい評価されたい自分を実際に効果的に演じ示せるかどうか，この２点がコミュニケーション不安を解消するためのポイントとなる。

相互に顔を見せあって話すことがかつてはコミュニケーションの基本形であった。相手のところへ出向いて，あるいは約束の場所で落ち合って生の表情を示しあい読み取りあいながらのリアルタイムの話であった。郵便もあったがやりとりには相当な時間を要する。一般の電話，携帯電話そしてスマートフォンとだんだんと肉声なしで文字や記号のみで通信できるようになってきた。特別な機会でなければわざわざ顔を合わせてまで話すことは少なくなりつつあるように思われる。いわば顔なしのコミュニケーションの時代が到来しているのである。目の前に相手がいるわけでないので自分の顔・表情を管理する必要はない。不機嫌な仏頂面のままでも愛想のよい言葉をキーボードに打ち込めば済むのである。小此木啓吾が20年余り前に指摘した「1.5の時代」がより一層現実味を帯びてきている。

今後の対人関係やコミュニケーションのなかで顔の果たす役割，顔に対する人々の意識はどのように変化していくのであろうか。ヒトの姿にそっくりなロボットが登場し，ヒトと区別がつかないほどに多彩な表情を示すようになり，ホテルのフロント係やアナウンサーとして活躍しているものもある。人間自身は豊かな人間性を取り戻すのか，ロボット以下の無機的な機械に向かっていくのか，今まさにその岐路にわれわれは立たされている。

無断転載禁止

Ⅱ　大学生における「顔・コミュニケーション」に対する心理

ここからは大学生98名（男子39名，女子59名）を対象として，顔やコミュニケーションに関連した30の質問への回答を単純集計した結果をもとに，大学生のそれら心理をより身近な問題として眺めていきたい。調査協力者の学年は1年生から4年生まで混在している。各表の下部には，選択肢1・2と選択肢4・5への回答の比率についての有意水準を示す。（†:p<.10　*:p<.01　**:p<.05　***:p<.001）

1．「顔」は相手とのコミュニケーションでどれくらい重要だと思いますか？

まったく重要でない　1・2・3・4・5　たいへん重要である
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.87	3(8)	0(0)	9(23)	14(36)	13(33)
女子（n=59）	3.76	2(3)	4(7)	15(25)	23(39)	15(25)
全体（n=98）	3.81	5(5)	4(4)	24(24)	37(38)	28(29)

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

コミュニケーションといえば「話す―聞く」といったバーバルな側面がまず思い起こされることが多いが，ノンバーバルな「顔」も重要であると認識されているようである。重要でないと考える者は10％に満たない。コミュニケーションを幅広く捉えて「顔」への意識が強いことは望ましいが，同時に顔や表情を用いるコミュニケーションへの不安や負担感に結びつきやすいとも考えられる。現実にはラインなどで済まされるコミュニケーション手段の占める割合が上昇し，直接的に相手と顔を突き合わせてのコミュニケーションが特別に気を遣わなければならない機会であると認識され始めているのではないかと懸念される。

2．恋愛が成立するときのきっかけとして男性の「顔」（容貌）はどれくらい重要だと思いますか？

まったく重要でない　1・2・3・4・5　たいへん重要である
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.97	1(3)	4(10)	2(5)	20(51)	12(31)
女子（n=59）	3.53	1(2)	5(8)	20(34)	28(47)	5(8)
全体（n=98）	3.70	2(2)	9(9)	22(22)	48(49)	17(17)

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

3．恋愛が成立するときのきっかけとして女性の「顔」（容貌）はどれくらい重要だと思いますか？

まったく重要でない　1・2・3・4・5　たいへん重要である
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.90	1(3)	4(8)	5(13)	17(44)	12(31)
女子（n=59）	3.90	1(2)	2(3)	12(20)	31(53)	13(22)
全体（n=98）	3.90	2(2)	6(6)	17(17)	48(49)	25(26)

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

「顔」を容貌としてとらえたときに大学生は恋愛成立の初期要件としてそれをかなり重要であると認識しているようである。心理的なレベルでの恋愛であってもきっかけにはモノとしての「顔」が大きく関与すると考えられているようである。女性の顔（容貌）についての男女間の性差は小さいが，男性の顔（容貌）の重要性については女性はそれほど重視していないにもかかわらず男性は自分の顔（容貌）は女性から見られ評価を受けていると強く感じているようである。男女大学生の自己および異性の魅力を考える際の身体特性に対する意識度を調べた結果によれば，50の身体特性リストの中で男子は女子の魅力を考えたとき「顔」を最も強く意識するとのことである。女子から見ても男子の「顔」は身長やスタイルなどと共に魅力の源泉として意識されている。

無断転載禁止

4．恋愛をさらに深めるために男性の「顔」（容貌）はどれくらい重要だと思いますか？

まったく重要でない　1・2・3・4・5　たいへん重要である
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.41	1（ 3）	9（23）	11（28）	9（23）	9（23）
女子（n=59）	3.08	2（ 3）	13（22）	25（42）	16（27）	3（ 5）
全体（n=98）	3.21	3（ 3）	22（22）	36（37）	25（26）	12（12）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子 n.s.　全体†

5．恋愛をさらに深めるために女性の「顔」（容貌）はどれくらい重要だと思いますか？

まったく重要でない　1・2・3・4・5　たいへん重要である
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.41	2（ 5）	7（18）	13（33）	7（18）	10（26）
女子（n=59）	3.32	2（ 3）	10（17）	22（37）	17（29）	8（14）
全体（n=98）	3.36	4（ 4）	17（17）	35（36）	24（24）	18（18）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子*　全体**

恋愛の成立を経てより親密な段階に進むためとなると容貌の問題はそれほど重要でなくなるのかどうかを問う質問であったが，前問のきっかけと比較するとやや重要でない方向への全体的なシフトが見られた。しかしながら「顔」は恋愛のきっかけ段階と進展段階の双方において無視できない重要なものと考えられているようである。ここでの恋愛とはリーの恋愛6類型の「エロス」（外見をも含めて恋愛を美しく至上のものと考えるタイプ）が想定されているのかもしれない。「ストルジュ」の友愛的なものであれば親密さ優先で顔（容貌）はあまり問題にされないであろう。特に女子は恋愛の深化・進展において男性の顔（容貌）をそれほど重要な要因であるとは見なしていない点は興味深い。

6．あなたは自分の気持ち（感情・考え）がすぐに顔に出やすいほうですか？

顔に出にくい　1・2・3・4・5　顔に出やすい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.03	4（10）	2（ 5）	3（ 8）	10（26）	20（51）
女子（n=59）	4.08	1（ 2）	7（12）	5（ 8）	19（32）	27（46）
全体（n=98）	4.06	5（ 5）	9（ 9）	8（ 8）	29（30）	47（48）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

「顔に出やすい」ほうであるとの回答が男女ともに7割から8割ほどに達している。自分の気持ちをストレートに表明できるという反面，うまく隠したり管理したりできないという意味合いも含まれるであろう。よって顔・表情から真意が読み取られるのではないかという不安にむすびつく傾向としての解釈もなされる。ただしこの質問だけでは，相手，状況，感情の種類などが特定されていないので「顔に出やすい」をポジティブ，ネガティブのどちらに捉えているのかは不明である。

7．あなたが好きになる異性のタイプの顔はいつもだいたい同じようですか？

まったく異なっている　1・2・3・4・5　ほとんど同じである
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.15	5（13）	9（23）	7（18）	11（28）	7（18）
女子（n=59）	3.00	11（19）	9（15）	15（25）	17（29）	7（12）
全体（n=98）	3.06	16（16）	18（18）	22（22）	28（29）	14（14）

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子 n.s.　全体 n.s.

好みの異性の顔の一貫性を問う質問であったが，回答の分布は幅広く特別な傾向は見いだせなかった。男性が好む女性には一貫性・類似性があるともいわれるが，そこには顔だけの問題ではなく体型や人柄，接触・交流の機会の多少なども関係しているのかもしれない。また好みのタイプの顔が1種類ではないがまったくラ

無断転載禁止

ンダムというのでもなく，異なる数種類にわたりつつもそれらに固定していることも考えられる。

8．あなたは元気そうな顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.10	1（3）	2（5）	6（15）	13（33）	17（44）
女子（n=59）	4.37	0（0）	1（2）	8（14）	18（31）	32（54）
全体（n=98）	4.27	1（1）	3（3）	14（14）	31（32）	49（50）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

9．あなたは誠実そうな顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.03	0（0）	2（5）	10（26）	12（31）	15（38）
女子（n=59）	4.22	0（0）	0（0）	15（25）	16（27）	28（47）
全体（n=98）	4.14	0（0）	2（2）	25（26）	28（29）	43（44）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

10．あなたは知的な顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.64	1（3）	4（10）	14（36）	9（23）	11（28）
女子（n=59）	3.76	0（0）	5（8）	23（39）	12（20）	19（32）
全体（n=98）	3.71	1（1）	9（9）	37（38）	21（21）	30（31）

［1・2］vs［4・5］　男子**　女子***　全体***

11．あなたは親しみやすい顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.41	0（0）	1（3）	4（10）	12（31）	22（56）
女子（n=59）	4.56	1（2）	0（0）	5（8）	12（20）	41（69）
全体（n=98）	4.50	1（1）	1（1）	9（9）	24（24）	63（64）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

12．あなたは異性によくモテる顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.13	0（0）	3（8）	9（23）	7（18）	20（51）
女子（n=59）	4.08	0（0）	2（3）	1（2）	6（10）	50（85）
全体（n=98）	4.10	0（0）	5（5）	10（10）	13（13）	70（71）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

「8．から12.」までの5問は自分がなりたい顔についての質問が連続している。内容的にはいずれもポジティブな意味合いの顔（容貌あるいは表情）が示されており，全体に高い肯定的回答となっている。顔についての質問であるが，理想の性格傾向や対人関係を示しているとも考えられる。相対的には「知的な顔」への憧れはやや低めとなっている。知的イメージがいくぶん冷静で神経質そうな雰囲気と重ねられた結果かもしれない。また「知的な顔」は「親しみやすい顔」と相反しないまでもやや相容れない面をもつと感じられているせいかもしれない。「選択肢4・5」への全体の回答率をみると，「親しみやすい顔：88％」，「異性によくモテる顔：84％」，「元気そうな顔：82％」，「誠実そうな顔：73％」，「知的な顔：52％」という順になる。気楽で活発な対人関係をもたらしてくれる顔が望まれていると解釈できる。「なりたい顔」についての結果であったが，立場を変えれば「相手に

無断転載禁止

期待する好きな顔（容貌あるいは表情）」でもあるだろう。

13. あなたは自分の顔が好きですか？

好きでない　1・2・3・4・5　好きである

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.79	8(21)	6(15)	15(38)	6(15)	4(10)
女子（n=59）	2.37	14(24)	21(36)	16(27)	4(7)	4(7)
全体（n=98）	2.54	22(22)	27(28)	31(32)	10(10)	8(8)

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子***　全体***

自分を代表し容易には取り替えられない自分の顔であるが，「好きである」との肯定・満足感を示す者はかなり少ない結果となった。特に女子は自分の顔を気に入っていない傾向が顕著である（否定率は60％）。この傾向は顔に限ったことでなく，男女大学生の自己の身体特性に対する満足度を調べた結果において太ももやふくらはぎの太さ，体型などについても同様の結果が報告されている。より美しくありたいという理想水準と現実との乖離の大きさを示すものとして理解される。また自分の顔への満足感の低さが前項目の「よくモテる顔」，次項目の「もっときれいな顔」への強い希求を喚起するのであろう。

14. あなたはもっときれいな顔になりたいですか？

なりたくない　1・2・3・4・5　なりたい

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.31	0(0)	1(3)	5(13)	14(36)	19(49)
女子（n=59）	4.76	0(0)	2(3)	1(2)	6(10)	50(85)
全体（n=98）	4.58	0(0)	3(3)	6(6)	20(20)	69(70)

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

シンプルに理想・憧れ・目標が表された結果であろう。女子の「きれいな顔になりたい：5選択」は85％にもなる高い回答率であった。男子においても平均が4.31と高く，きれいな顔は男女を問わず希求され強く関心を持たれる対象であることは明確である。入念な化粧への基本的な動機の一つと考えられる。男子においても「整ったきれいな顔」と同時に「肌のきれいな顔」も望まれており簡易な化粧が広まりつつあるように思われる。現在の自分の顔に十分に納得している者は男女98名中一人もいなかった。

15. 自分の顔は男らしいですか，女らしいですか？

男らしい　1・2・3・4・5　女らしい

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.54	9(23)	8(21)	15(38)	6(15)	1(3)
女子（n=59）	3.49	1(2)	7(12)	20(34)	24(41)	7(12)
全体（n=98）	3.11	10(10)	15(15)	35(36)	30(31)	8(8)

［1・2］vs［4・5］　男子*　女子***　全体†

自分の性に典型的特徴的な顔であるとの回答率は男女とも40％前後で，逆に異性の顔らしいとの回答率は10％台ある。「自分の顔は…」と尋ねられているものの単に自分の顔のみを対象とした回答か，行動，表情，性格なども加味し反映された自己概念に対する回答か，やや疑問が残る。自分の顔を典型的な性を示すものととらえる者は男女ともに多くないことは確かである。男らしさ・女らしさが何をもってどんな基準で判断されているのか，その基準には顔の輪郭や肌色が中心的役割を果たすのか，目，鼻，口の各パーツおよびそれらの配置も重要なのか，あるいは髪型もかなり影響するのか，今後の問題として興味がもたれる。よほど両極端の性別を示す顔でない限り，男女それぞれの顔は両極の間の連続線上にあるわけで両者の要素を何かしらの割合で含んでいるため，今回の結果はそのことを示している。

無断転載禁止

16. あなたは自分の顔への関心は強いですか？

関心は弱い　1・2・3・4・5　関心は強い

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.95	2（ 5）	12（31）	16（41）	4（10）	5（13）
女子（n=59）	3.59	4（ 7）	5（ 8）	17（29）	18（31）	15（25）
全体（n=98）	3.34	6（ 6）	17（17）	33（34）	22（22）	20（20）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子***　全体*

「きれいな顔になりたい」をも含んでより広範な自分の顔への関心となると，男子ではかなり低くなる。

顔に関心を集中させるのは男らしくないという基本的な捉え方があるのかもしれない。親しみやすい顔，よくモテる顔になりたいという願望を日常的に持っていてもただそれだけであって実現に向けての具体的行動に移すための関心はそれほど強くないと解釈できる。女子は実現に向けた化粧が自分の顔への関心の高さを物語っているといえよう。

17. あなたの顔は幼い感じですか，大人びた感じですか？

幼い感じ　1・2・3・4・5　大人びた感じ

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.18	3（ 8）	7（18）	14（36）	10（26）	5（13）
女子（n=59）	2.69	10（17）	15（25）	20（34）	11（19）	3（ 5）
全体（n=98）	2.89	13（13）	22（22）	34（35）	21（21）	8（ 8）

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子†　全体 n.s.

女子のほうが生理形態上若く（幼く）見える顔つきになりやすい。顎の発達抑制や相対的に丸い顔，つまり子どもの顔に近いのである。したがって女子のほうが男子と比べて自分の顔を幼いと評価したのは不思議ではない。さらに20歳前後の年齢では成熟した大人としての美しさを求めるよりも，女の子としての未熟さを含むかわいらしさを求め髪型，眉，唇などの化粧を行っているのではないかという理由も考えられる。男子の場合は大学生ともなると幼い感じよりも成熟し独立した社会的存在としての自分の顔を見出したいという一面も反映されているであろう。

18. 自分の顔を鏡でよく見るほうですか？

ほとんど見ない　1・2・3・4・5　よく見る

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.00	2（ 5）	12（31）	13（33）	8（21）	4（10）
女子（n=59）	3.53	1（ 2）	8（14）	18（31）	23（39）	9（15）
全体（n=98）	3.32	3（ 3）	20（20）	31（32）	31（32）	13（13）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子***　全体**

自分の顔への関心，化粧との関連で解釈すれば，女子のほうが「鏡でよく見る」のは自然なことであろう。洗顔やトイレの後に鏡で自分の顔を見ることは普通にあると思われるが，そうした日常的な見方以外に特別に顔・髪型をチェックするためだけに鏡を見ることはあまり多くないようである。外出時に鏡を携帯しているかどうかを質問することも調査には有効かと思われる。筆者の大学での個人的感覚でいえば女子の多くはコンパクトな鏡を携行しており男子ではほとんどいないと思われる。

19. 自分の顔をよくケア（手入れ）するほうですか？

ほとんどしない　1・2・3・4・5　よくする

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.05	3（ 8）	8（21）	15（38）	10（26）	3（ 8）
女子（n=59）	3.61	3（ 5）	7（12）	11（19）	27（46）	11（19）
全体（n=98）	3.39	6（ 6）	15（15）	26（27）	37（38）	14（14）

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子***　全体***

顔をケアするときにはたいてい鏡を見ながら

無断転載禁止

するという場合が多いはずで前問とリンクしている。やはり女子のほうが自分の顔をきれいにする・きれいに見られるためによくケアしていることがわかる。ケア（手入れ）の内容はメイクばかりでなく，洗顔，保湿，紫外線対策，栄養やサプリ摂取などもあると思われる。

20. あなたは自分の顔を整形することに抵抗がありますか？

まったく抵抗がない　1・2・3・4・5　たいへん抵抗がある
（　）内の数値は％

	M	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.74	4（10）	3（ 8）	7（18）	10（26）	15（38）
女子（n=59）	3.29	6（10）	15（25）	10（17）	12（20）	16（27）
全体（n=98）	3.47	10（10）	18（18）	17（17）	22（22）	31（32）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子†　全体**

男女間で差がみられ，女子のほうが整形への抵抗感が少ないという結果である。男子は整形などしたくない・すべきではない・する必要がないと考えている結果であろう。女子でも整形への抵抗をもつ者のほうが多いながらも，女子では整形も美しくなるための有効な手段の一つとして捉えている者も少なくないと思われる。

21. あなたは自分の横顔をどれくらい見ることがありますか？

まったく見ない　1・2・3・4・5　たいへんよく見る
（　）内の数値は％

	M	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.41	10（26）	17（44）	3（ 8）	4（10）	5（13）
女子（n=59）	2.36	12（20）	24（41）	15（25）	6（10）	2（ 3）
全体（n=98）	2.38	22（22）	41（42）	18（18）	10（10）	7（ 7）

［1・2］vs［4・5］　男子**　女子***　全体***

自分の横顔をあまり見ない者は6割程度であった。残りの4割ほどの学生はどのような方法，目的で横顔を見ているのであろうか。「顔」はふつうに鏡で見たときに見えるのは正面顔であり，写真撮影の顔や思い浮かべるときの顔も正面顔であろう。横顔を見るにはなんらかの装置・工夫がなければならないし，また横顔を見る必要に迫られることもほとんどないと思われる。女子学生は化粧の際に横顔のチェックをどれくらいするのかも疑問である。

22. あなたは自分の横顔と正面顔のどちらが好きですか？

横顔が好き　1・2・3・4・5　正面顔が好き
（　）内の数値は％

	M	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.18	7（18）	1（ 3）	16（41）	8（21）	7（18）
女子（n=59）	3.31	7（12）	5（ 8）	20（34）	17（29）	10（17）
全体（n=98）	3.26	14（14）	6（ 6）	36（37）	25（26）	17（17）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子*　全体**

学生証や各種証明写真も正面顔が使われる。日本人の顔は平板で西欧人のように立体的でないので横顔には特徴・個性が表れにくいといわれる。西欧のコインでは横顔が用いられることが多い。自分でもよく見慣れた正面顔に愛着を抱きやすいのは当然であろう。しかし2割ほどの学生は横顔が好きと回答しており，この理由については今後の探求課題である。さらに自分の顔および他者の顔について，正面顔と横顔に対して好悪感情や美醜判断にちがいが出るのかどうか興味が持たれる。

23. あなたは自分の名前をどれくらい「自分」であると感じますか？

「自分」でない　1・2・3・4・5　「自分」である
（　）内の数値は％

	M	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.72	2（ 5）	7（18）	5（13）	11（28）	14（36）
女子（n=59）	4.17	0（ 0）	5（ 8）	9（15）	16（27）	29（49）
全体（n=98）	3.99	2（ 2）	12（12）	14（14）	27（28）	43（44）

［1・2］vs［4・5］　男子**　女子***　全体***

無断転載禁止

目の前の人から「あなたは誰か？」と問われれば自分の名前を答えるのが通常である。この場合には自分の顔を「自分である」と言っても問いの答えにはならない。名前は社会的・記号的に自己を代表するものである。名前は個人の生年月日や性別，住所，所属などよりも自己を明確に，限定して示すことができる。しかし自分の名前を「自分」であると感じる学生の割合は７割程度にしかすぎない。自分とは自分の内面の意識，プライベートな領域であると捉えれば，自分の名前は表面的な仮のものと感じられるのかもしれない。

確かに名前は他者（多くは親）が命名したもので変えたり偽名や芸名などを使ったりもできる。

24. あなたは自分の顔をどれくらい「自分」であると感じますか？

「自分」でない　1・2・3・4・5　「自分」である

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	4.00	0（ 0）	3（ 8）	8（21）	14（36）	14（36）
女子（n=59）	3.88	1（ 2）	6（10）	11（19）	22（37）	19（32）
全体（n=98）	3.93	1（ 1）	9（ 9）	19（19）	36（37）	33（34）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

ある名前の人間を証明・特定するものが顔写真である。指紋や遺伝子よりずっと簡単に一瞥するだけで判断がつく。身体の他の部分を顔の代わりに用いることはできない。自分を身体的・物理的に代表する。整形手術もあるが，名前ほど容易には変更できない。また自分の内面感情・欲求などが表れやすく，対人関係においてインターフェイスの役割を果たす。「自分」の一部であり切り離すことはできない。これほど顔は「自分」であると考えられるが「自分」であるとの評価は先の名前と近似したものであった。筆者が以前に学生を対象にした数回の授業内の簡易な調査において，名前と顔のどちらがより「自分」であると感じられるかは調査ごとの変動はあるものの総合的にみれば拮抗した結果がみられている。「自分」として実感できるものは，物質的客我，社会的客我，精神的客我など多次元の「自分」を総合したもので，名前のみ，顔のみでは全体的な「自分」とは認めきれないのではないかと推察される。

25. あなたは異性の相手に対して，自分の気持ちをうまく顔（表情）に表すことが出来ますか？

出来ない　1・2・3・4・5　出来る

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.33	6（15）	7（18）	6（15）	8（21）	12（31）
女子（n=59）	3.03	6（10）	15（25）	18（31）	11（19）	9（15）
全体（n=98）	3.15	12（12）	22（22）	24（24）	19（19）	21（21）

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子 n.s.　全体 n.s.

ここでの「気持ち」は異性に対しての気持ちとあるので，強い関心・好意・恋愛感情に類するものと捉えられたのではないかと考える。こうした気持ちを相手に表すことはたとえ意識的能動的に行うことであっても自分の内面の秘密が漏れ出る，察知されると感じられるとともに，その結果としての相手からのフィードバックも気にかかることから，うまく自然に表すことは困難になるのであろう。表出できる・出来ないが幅広い分布をみせ，個人差の大きい項目である。

26. あなたは異性の顔（表情）を見て，相手の気持ちをうまく読み取ることが出来ますか？

出来ない　1・2・3・4・5　出来る

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.54	1（ 3）	6（15）	12（31）	11（28）	9（23）
女子（n=59）	3.47	6（10）	4（ 7）	16（27）	22（37）	11（19）
全体（n=98）	3.50	7（ 7）	10（10）	28（29）	33（34）	20（20）

［1・2］vs［4・5］　男子†　女子***　全体***

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 54 No. 2

自分の気持ちを顔（表情）に表すことよりも読み取ることのほうがいくぶん得意であるという結果である。自分では顔（表情）に表すことが苦手でうまく伝わっていないのではないかと思っていてもある程度は伝わっていることを示唆する結果である。今回クロス集計を行っていないが，顔（表情）の表出スキルと読み取りスキルとはかなり連動している可能性があると思われるので調査を進めたい。

27. あなたはメガネをかけた顔をどう思いますか？

好きでない　1・2・3・4・5　好きである

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.64	10（26）	8（21）	10（26）	8（21）	3（ 8）
女子（n=59）	2.76	10（17）	10（17）	27（46）	8（14）	4（ 7）
全体（n=98）	2.71	20（29）	18（18）	37（38）	16（16）	7（ 7）

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子 n.s.　全体*

これからの４つの質問は「メガネ，マスク，ヒゲ，帽子」によって顔に何かが付与されたり一部が覆われたりした場合の顔についての好き嫌いを尋ねたものである。質問の意図はそうした一般的な顔についてどう思うかを尋ねたつもりであるが，自分自身の場合の顔としての回答があったことは否定しきれない。しかし一般的な顔が想定されたものとして考察する。

大学生ではコンタクト・レンズの使用が多く少なくとも人前でのメガネの着用率は低いようである。自分自身のメガネ着用頻度が好き嫌いに影響していることは十分考えられる。どちらかというとメガネを着用した顔は好まれていない傾向にある。「知的な顔になりたい」への肯定的回答が50％程度でしかなかった。メガネの印象の一つに「知的に見える」があると思われるが，そのことにあまり価値がおかれていないのかもしれない。顔の形と相性のよいフレーム形状（ラウンド，オーバル，スクエア，ウェリントン）やカラーなどへの関心・知識が少なくメガネを積極的に取り入れようとしない態度も一因かと考えられる。

28. あなたはマスクをかけた顔をどう思いますか？

好きでない　1・2・3・4・5　好きである

（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.36	11（28）	11（28）	12（31）	2（ 5）	3（ 8）
女子（n=59）	2.61	9（15）	17（29）	25（42）	4（ 7）	4（ 7）
全体（n=98）	2.51	20（20）	28（29）	37（38）	6（ 6）	7（ 7）

［1・2］vs［4・5］　男子***　女子***　全体***

マスクをかけた顔を好きであるとの回答は10％あまりである。衛生・健康上やむを得ない場合の着用を除いては，相手と直接的に関わらないような状況，例えば大教室で授業を受けるなどの場面では許容・寛容的にみられるが，対面状況や公式な場面での着用はすべきでないとの意見が先の調査結果から示されている。

厳冬シーズンにはいわば市民権を得たマスクであるが，マスクをかけた顔そのものは好まれていない。顔面積のほぼ下半分が隠れてしまうので表情豊かなコミュニケーションは阻害され対人関係での物理的かつ心理的な壁として作用するのであろう。しかしながらマスクを着用する本人としては他者からの低評価やコミュニケーションへの障害よりも他者からの視線を少しでも遮りたい・逃れたいという気持ち，すなわちマスク着用による安心感のほうが優先されるのではないだろうか。

無断転載禁止

29. あなたはヒゲを生やした顔をどう思いますか？

好きでない　1・2・3・4・5　好きである
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	2.28	15(38)	8(21)	9(23)	4(10)	3(8)
女子（n=59）	1.92	27(46)	15(25)	12(20)	5(8)	0(0)
全体（n=98）	2.06	42(43)	23(23)	21(21)	9(9)	3(3)

［1・2］vs［4・5］　男子**　女子***　全体***

ヒゲを生やした顔への明確な嫌悪的評価とみなされる結果である。ヒゲを生やすことのある（できる）男子では多少の好意的評価もあるが，自らはヒゲと無縁の女子ではヒゲへの嫌悪は顕著である。日本の文化では一般にヒゲのない顔のほうが当たり前であると認識されている。ヒゲは年齢的には中年の黒いヒゲから老人の白いヒゲといったものが想起されやすく精悍で颯爽としたヒゲのイメージへの連想がなかったのかもしれない。ヒゲにはどのようなイメージがもたれているのか，髭剃りへの意識と具体的行動についてはどうなのか，ヒゲを生やしている者といない者とを比較して調べてみるのは興味深い。

30. あなたは帽子をかぶった顔をどう思いますか？

好きでない　1・2・3・4・5　好きである
（　）内の数値は％

	Ḿ	1	2	3	4	5
男子（n=39）	3.05	5(13)	6(15)	17(44)	4(10)	7(18)
女子（n=59）	3.29	4(7)	4(7)	28(47)	17(29)	6(10)
全体（n=98）	3.19	9(9)	10(10)	45(46)	21(21)	13(13)

［1・2］vs［4・5］　男子 n.s.　女子**　全体*

帽子の着用に関する先の調査で，授業や発表，面接，目上の人との応対などでは相応しくないとの大学生の判断結果が示されている。しかしながら自分が実際に対面するプライベートな雑談やデート状況であればファッションの一つとして好ましいものと受け止められている。ここでの帽子はキャップかニット帽が想定されていると思われる。頭部を覆うだけで顔（表情）はそのまま見えるためコミュニケーションの障害にならない。ただしふだんから自分自身が帽子をかぶる習慣があるかどうかで好き嫌いがわかれたのではないかと考えられる。

ヒトの顔といえども発生過程からみると生物としての動物の顔との共通点は多くある。よりよく環境に適応するための顔であり，栄養，酸素，情報を取り入れる顔であった。適応に必要な情報収集のための目の役割は大きく，顔は「見るための顔」であった。しかし相互に見るということは自分の顔は相手から「見られる顔」でもある。ヒトの顔には内面の心理状態が反映される。顔で自分に関する情報を相手に伝えることができる。顔は「自分を見せる」顔となるのである。顔は社会的な状況では身体のように覆い隠して生きることはできない。相互伝達のための顔は相互に評価され好悪感情の対象ともなる。そこで顔は「魅せる顔」ともなる。コミュニケーションは伝達手段の多様化により急速に「顔」を必要としない時代になりつつある。AIとともに知的機能ばかりでなくヒトにそっくりな顔をした機械も登場するようになってきた。個人の「顔」がどんどんと個人の心と身体から離れていく時代の到来を感じずにはいられない。

参照文献

高木　修（監修）大坊郁夫・神山　進（編著）2003　被服と化粧の社会心理学　北大路書房

竹原卓真，野村理朗　2004　「顔」研究の最前線　北大路書房

日本顔学会（編）2015　顔の百科事典　丸善出版

馬場悠男・金沢英作（共編）1999　顔を科学する！　ニュートンプレス

馬場悠男　2009　「顔」って何だろう？　日本放送出版協会

原島　博，馬場悠男　1996　人の顔を変えたのは何か　河出書房新社

無断転載禁止

阪南論集　人文・自然科学編　Vol. 54 No. 2

深田博己　2009　インターパーソナル・コミュニケーション　北大路書房
山口真美　2010　美人は得をするか 「顔」学入門　集英社
吉川　茂　2018 「だてマスク」着用に関する心理学的研究　阪南論集　Vol.53 No.2　97-108.
吉成　勇（編）1995　日本人の顔　新人物往来社

（2018年11月23日掲載決定）

無断転載禁止